

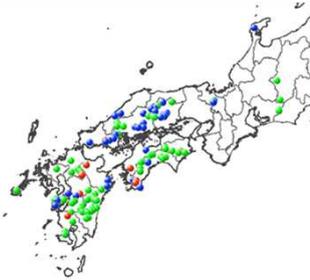
V 事業効果

概要

- 令和4年台風第14号、第15号により、九州地方や中部地方などでは、猛烈な雨を観測し、河川の氾濫や内水による甚大な浸水被害が発生したものの、平成30年7月豪雨や、令和元年東日本台風と比較すると、総降水量は少なく、観測史上1位を更新した観測点数も少なかった。
- また、これまでの5か年加速化対策等により、河道掘削(中部・九州地方では、約1,700万m³(ダンプトラック約340万台分))や堤防整備などの事前防災対策を実施してきました。
- 加えて、台風第14号では、台風接近に伴う降雨予測に基づき、過去最多(129ダム)の事前放流を行うことができました。
- その結果、国が管理する多くの河川では、堤防の決壊等による大規模な浸水被害の発生を食い止めることができ、甚大な被害が発生していた近年の水害と比べ、氾濫等発生河川数や土砂災害発生件数等は少なかったものの、降水量が多ければ、大規模な浸水被害が発生していた可能性があります。

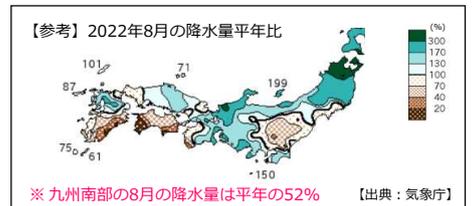
ダムの洪水調節のための容量確保(事前放流)

全国	令和4年9月台風第14号
事前放流したダムでの確保容量(国交省所管ダム+利水ダム)	約4.2億m ³ (129ダム)



上記に加え、既に確保していた事前放流の容量約2.7億m³(94ダム)

事前放流実施ダム数	
多目的ダム(直轄、水機構)	10 ダム
多目的ダム(道府県)	42 ダム
利水ダム	77 ダム
合計	129 ダム



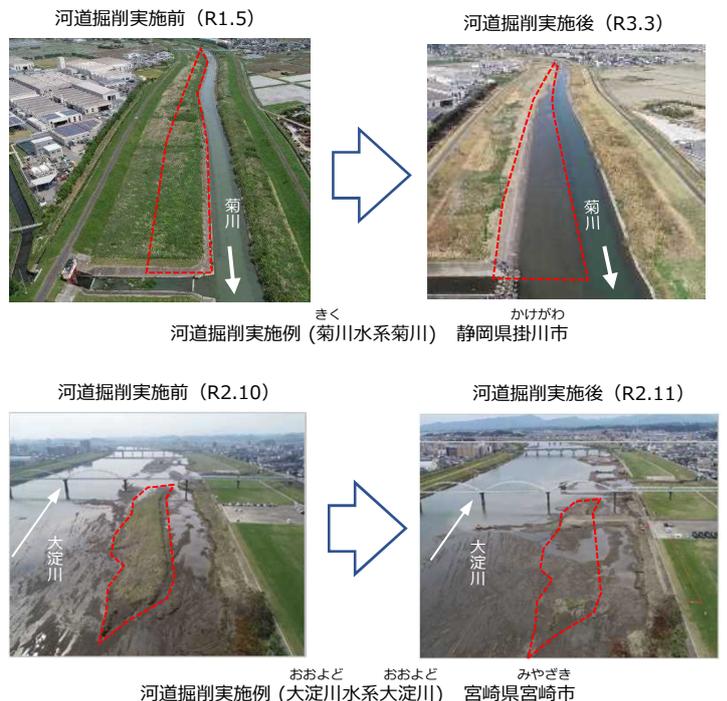
- 治水協定を締結した事前放流の対象ダムは、全国で1,436ダム(令和4年9月時点)
- 事前放流の実績としては、令和2年台風第10号では76ダム、令和3年8月大雨では69ダムで事前放流を実施

3か年緊急対策、5か年加速化対策等による河道掘削

【河道掘削量(H30~R3)】

	各地方での対策量	(参考) 全国
中部地方	約592万m ³ の河道掘削を実施(ダンプトラック約120万台)	約7,840万m ³
九州地方	約1,090万m ³ の河道掘削を実施(ダンプトラック約220万台)	

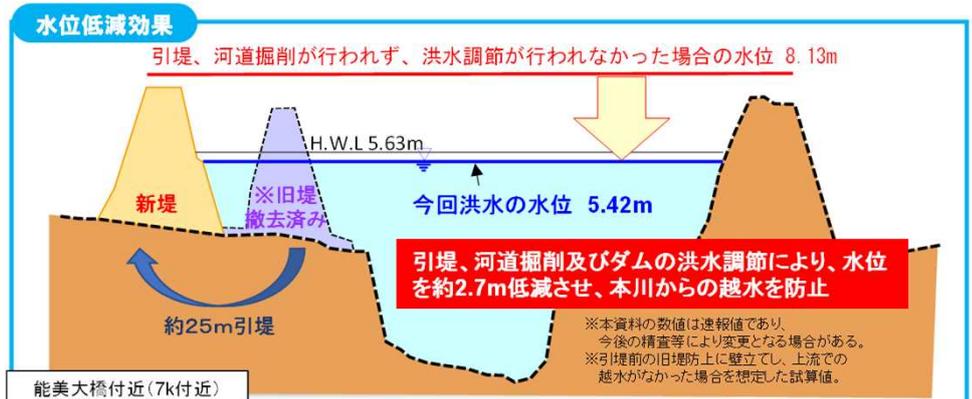
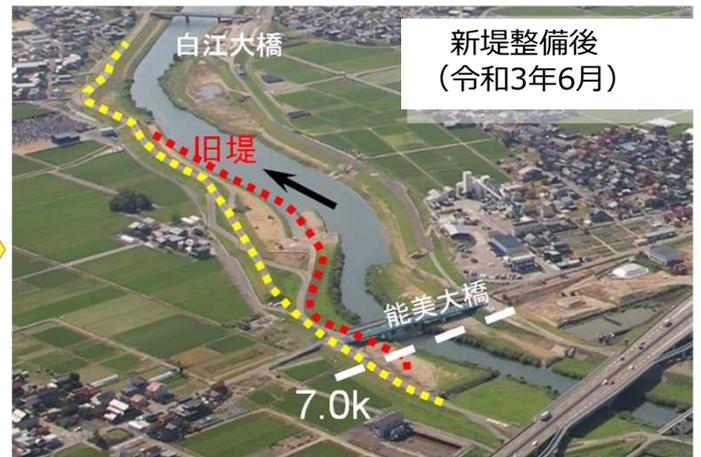
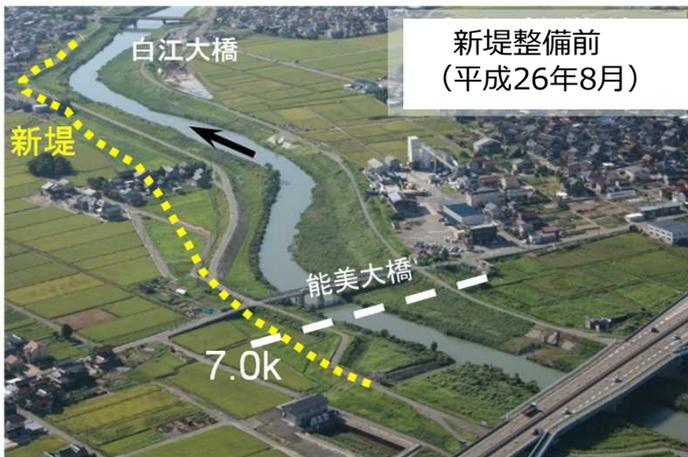
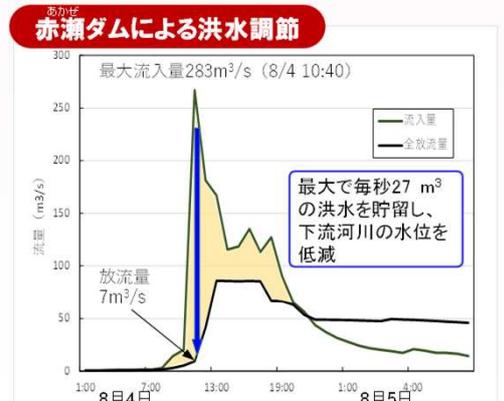
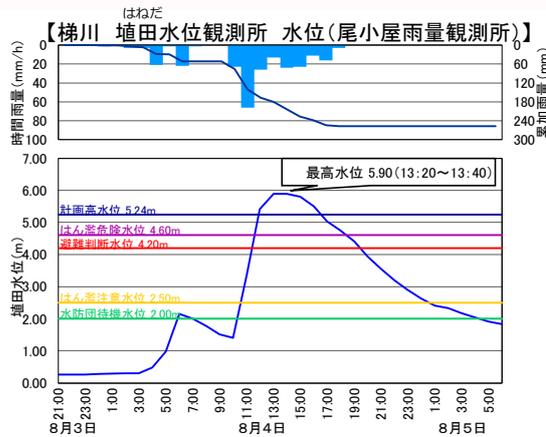
10tダンプトラックを想定し、1台あたりの積載量は5m³として換算



V 事業効果

概要

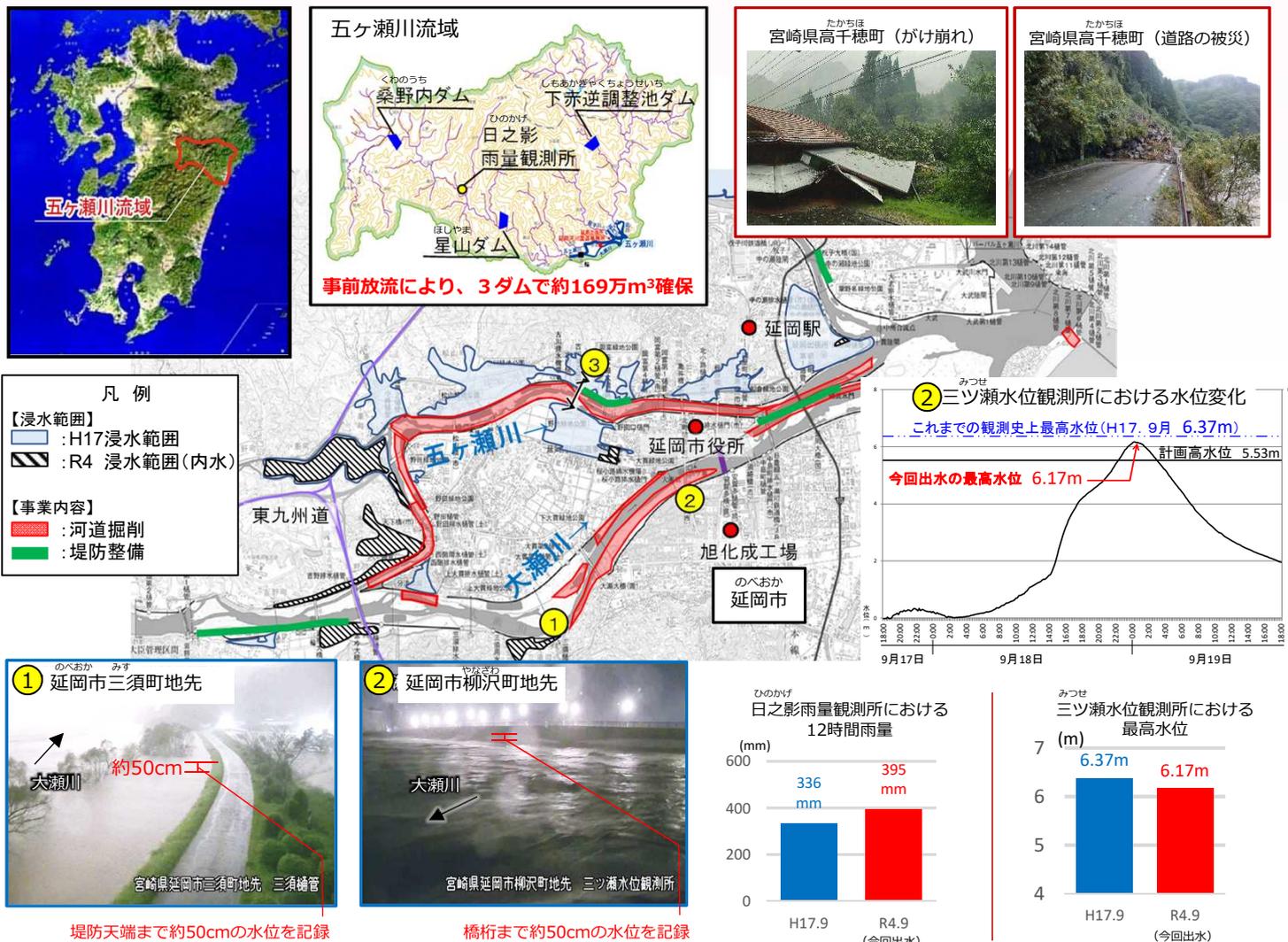
- 梯川流域では、令和4年8月3日未明から4日夕方にかけて雷を伴う猛烈な雨が降り、尾小屋雨量観測所で260mm/24時間（観測史上第1位）の記録的な雨量を観測しました。
- 梯川では、「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」及び「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」も活用し、引堤、河道掘削を実施してきたこと、赤瀬ダムによる洪水調節を実施したこと等により、能美大橋付近（7.0k地点）において河川水位を約2.7m低減させ、越水による浸水を未然に防止しました。



V 事業効果

概要

- 令和4年9月の台風第14号による豪雨により、五ヶ瀬川流域では崖崩れや道路の被災など多くの被害が発生しました。
- 今回の豪雨は、計画高水位を超過するなど、観測史上最高の雨量、水位を記録した平成17年台風第14号と同規模です。
- 平成17年以降、国土強靱化予算等により、河道掘削、堤防整備等を進めてきたことに加え、ダムでの事前放流により貯留量を確保したことにより、五ヶ瀬川、大瀬川の氾濫をギリギリ回避し、延岡市の中心市街地を含む地域の浸水を防止しました。



事業効果

平成17年～令和3年度末までの対策内容

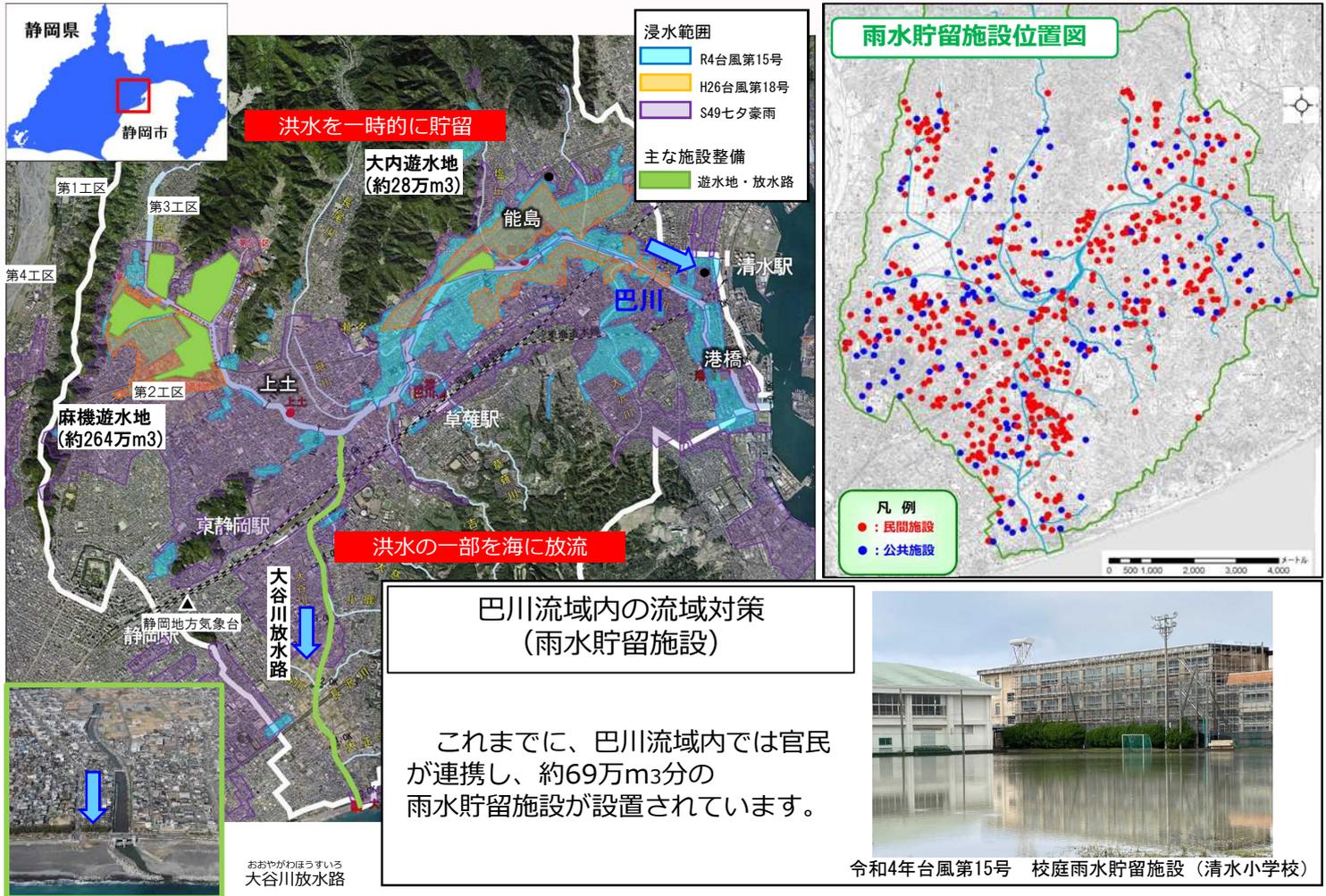
河道掘削	約177万m ³ (ダンプ35万4千台相当)
堤防整備	1,900m



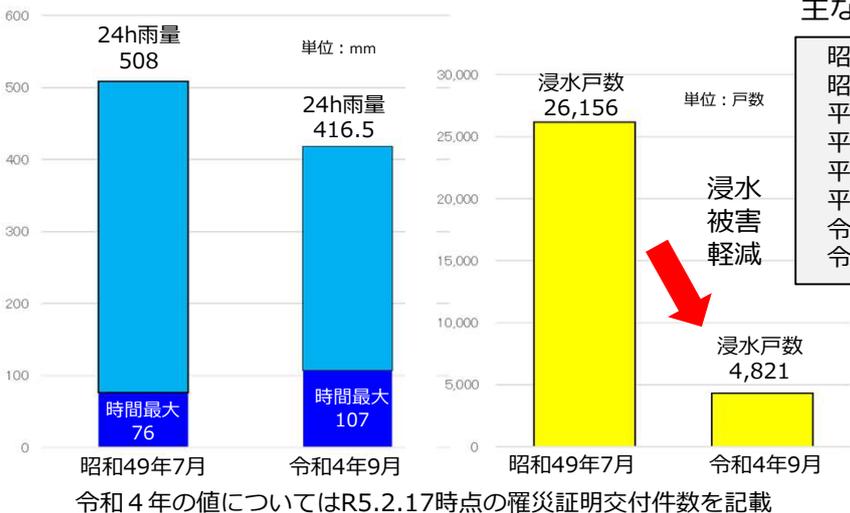
V 事業効果

概要

- 令和4年台風第15号に伴う豪雨により、静岡市では、静岡地方気象台観測所で時間最大雨量107mm/h、24時間最大雨量416.5mmを観測しました。
- 巴川では、昭和49年七夕豪雨を契機として、昭和54年度から総合治水対策特定河川事業に着手し、放水路や遊水地等に加え、公共公益施設への雨水貯留施設等を整備しました。
- これまでの治水対策により、昭和49年七夕豪雨と比較して、浸水家屋数が約8割減少しました。



七夕豪雨との比較



主な河川整備の経過

昭和49	昭和49年台風第8号と梅雨前線 (七夕豪雨)
昭和54~	総合治水対策特定河川事業着手
平成11	大谷川放水路供用、麻機遊水地の第4工区供用
平成16	麻機遊水地の第3工区供用
平成20	大内遊水地供用
平成21	特定都市河川に指定、麻機遊水地の第1工区供用
令和3	麻機遊水地の第2工区の暫定供用
令和4	令和4年台風第15号

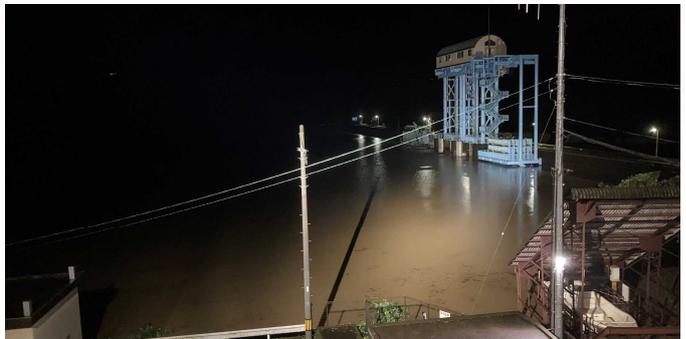
浸水範囲は、罹災証明書 (浸水被害) の位置や現地の地形条件等から推定したものであり、実際の浸水範囲と異なる場合があります。

概要

- 令和4年台風第14号では、湯山雨量観測所において累加雨量949mmとなり、令和2年7月豪雨(517mm)を上回る降雨量を記録しました。
 - 市房ダムでは、通常の洪水調節容量1,830万m³に加え、事前放流により約470万m³の容量を追加確保したため、大雨により緊急放流※に至ったものの、人吉地点のピーク水位を上昇させませんでした。
 - ダムの洪水調節により、ダムからのピーク流量の発生時刻を約1.5時間遅らせ、最大放流量を286m³/s低減することで、下流の多良木水位観測所で約90cm、人吉水位観測所で約20cmの水位低減効果があったと推定されます。
- ※ダムが満水に近づいたときに、放流量を流入量に近づけていき流入量と同程度の放流を行う操作

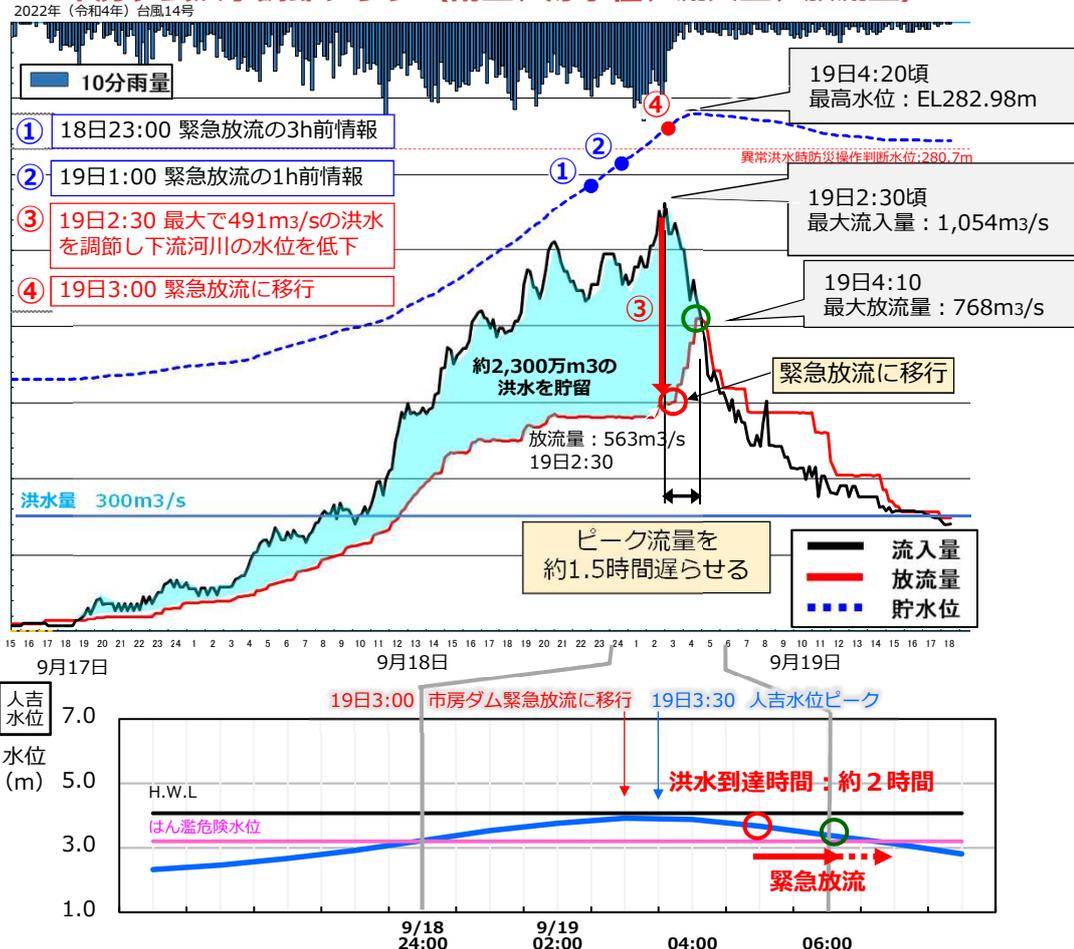
市房ダム洪水調節概要図

最高貯水位頃の湖面状況 9月19日 3:40頃 (EL.282.84)



※数値等は速報値のため、今後の精査等により変更する場合があります。

市房ダム洪水調節グラフ (雨量、貯水位、流入量、放流量)

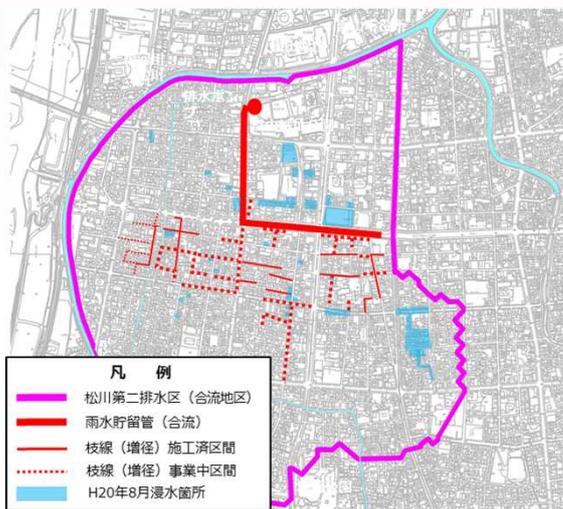


＝ 概要 ＝

- 富山市松川第二排水区まつかわでは、平成20年8月の豪雨(時間最大52.0mm/h)により床下浸水が69戸発生しました。
- 松川第二排水区では、10年確率58mm/hの計画降雨に対応するため、雨水貯留管の整備を行うとともに、3か年緊急対策及び5か年加速化対策の予算を活用し、既設下水道管の増径工事を行い、浸水対策を実施中です。
- 令和4年8月20日の豪雨(時間最大50.5mm/h)では、被害戸数が0戸になるなど、浸水被害の防止に大きく寄与しました。

『松川第二排水区浸水対策』の概要と整備効果

概要



雨水貯留管(松川貯留管)
直径：5.0～5.4m
長さ：1,069m
容量：20,200m³
平成30年供用開始



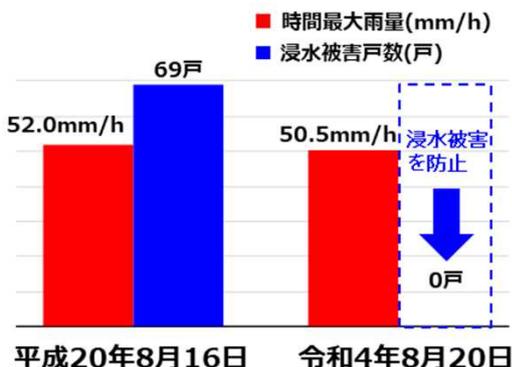
枝線(増径)施工状況

整備効果

浸水状況(平成20年8月16日)

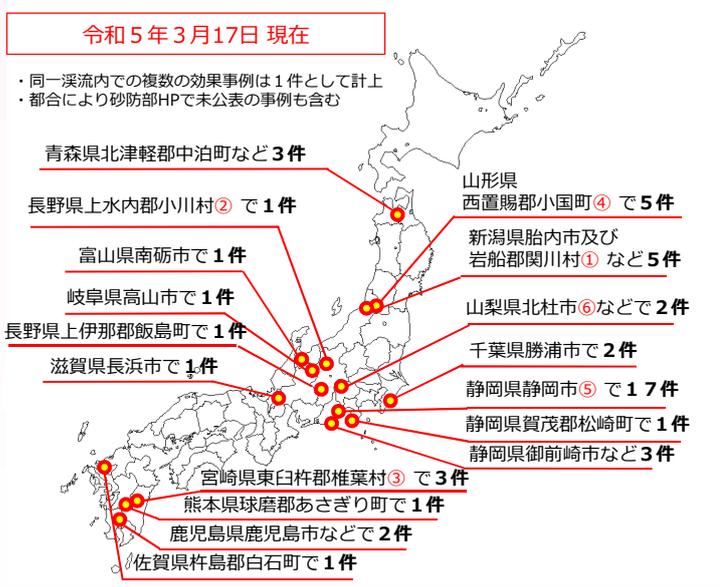


浸水状況(令和4年8月20日)



雨水貯留管の整備及び既設下水道管の増径工事により、令和4年8月20日の豪雨(時間最大50.5mm/h)において、浸水被害は発生しておらず、浸水対策の整備効果が得られました。

令和4年度、短時間で多量の降雨が確認された箇所において、全国から**50件**の効果事例報告がありました。

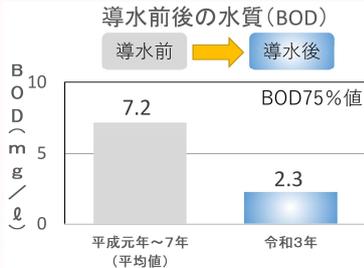


V 事業効果

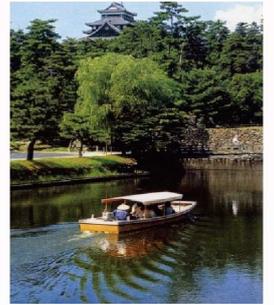
まつえほり

松江堀川（島根県）

松江市の中心部を流れる堀川の浄化対策を国、県、市及び地域住民が連携し実施、平成9年には堀川遊覧船が就航しました。また、水辺を活かしたまちづくりを県と市が一体となり推進しています。



昭和40年代 水質汚濁が深刻な堀川



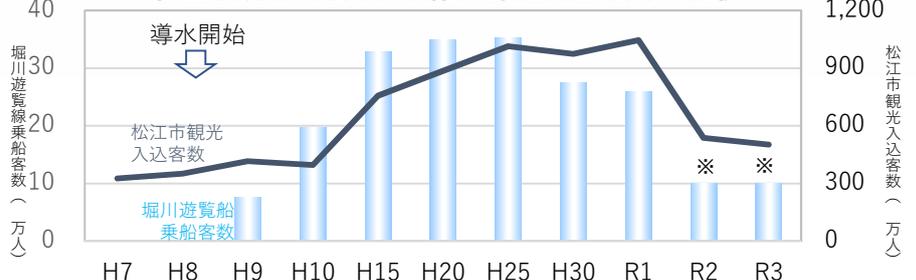
平成9年 遊覧船就航 (年間30万人が利用)

松江堀川の水質改善を図るため、国により導水事業を実施するとともに、県及び市により浚渫を実施しました。

浄化導水のルートと遊覧船のコース



松江市観光入込客数と堀川遊覧船乗船客数の推移



※・H10以前の松江市入込客数は合併前の松江市での統計
 ・R2,3年度は新型コロナウイルスの影響より観光客が減少

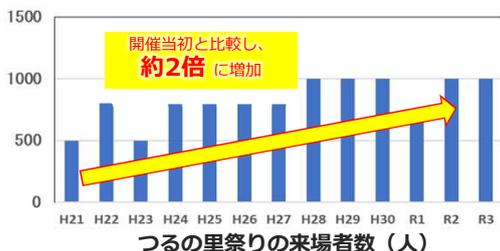
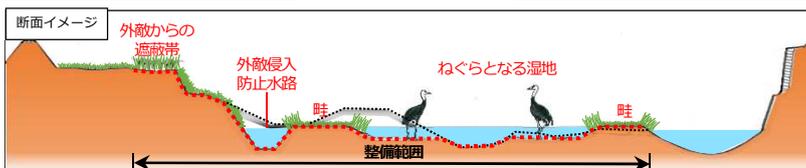
わたり

渡川（高知県）

ツル類の飛来環境を保全・創出することを目的に、湿地環境を創出するとともに、四万十市・農業関係者等の取組と連携した生態系ネットワークの形成に取り組んでいます。



飛来したツル



つるの里祭り開催状況



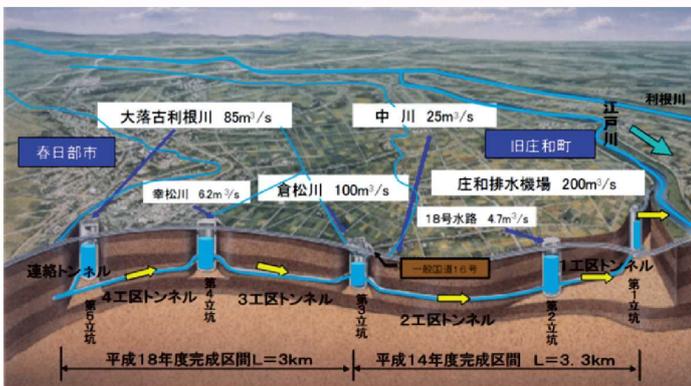
ツルの観察バスツアーの様子

V 事業効果

しゅとけんがいかくほうすいる
首都圏外郭放水路

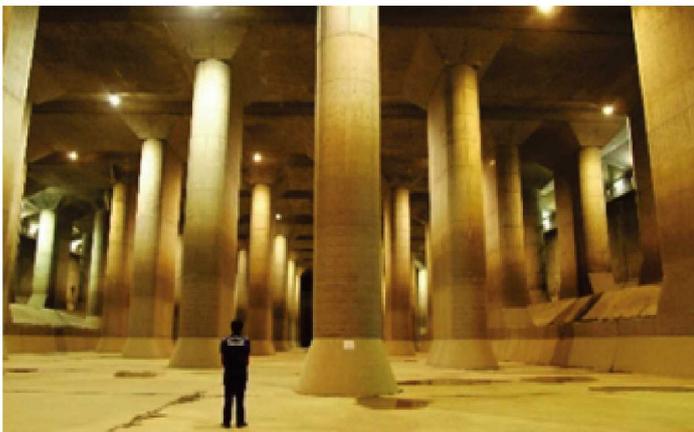
- ・ 中川・綾瀬川流域は、低平な地形で都市化が急速に進展し水害が発生しました。
- ・ 首都圏外郭放水路（平成14年部分通水、平成18年全区間通水開始）等の整備により、水害による浸水戸数が激減しました。（昭和50～59年平均約7,000戸→平成19～28年平均約950戸）
- ・ 春日部市では部分通水後の平成15年度から「産業指定区域」を指定し「水害に強い都市基盤」を積極的に広報。物流倉庫やショッピングセンターなど30件の企業が新たに進出するなど地域の発展に貢献しました。

かすかべ
首都圏外郭放水路の概況（埼玉県春日部市）

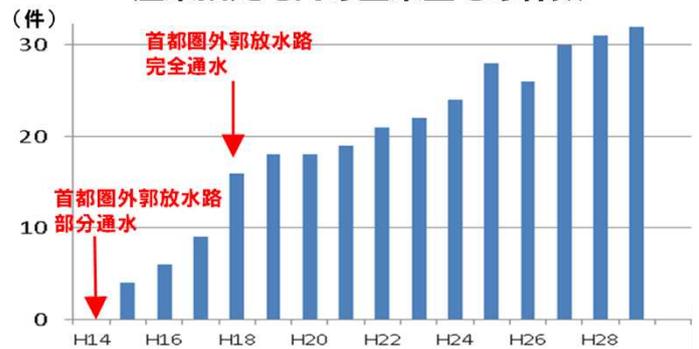


首都圏外郭放水路の洪水調節実績

順位	年月日	洪水名	洪水調節総量 (千m ³)	流域平均48時間雨量 (mm)
1	平成27年09月09日	台風17号、18号	19,031	230.4
2	平成26年06月06日	低気圧	13,426	200.2
3	平成29年10月22日	台風21号	12,040	189.7
4	平成20年08月28日	低気圧	11,720	124.8
5	平成25年10月16日	台風26号	6,848	179.6
6	平成16年10月09日	台風22号	6,720	199.2
7	平成24年05月03日	低気圧	6,678	137.0
8	平成18年12月26日	低気圧	6,621	171.9
9	平成18年10月16日	前線降雨	5,104	134.8
10	平成23年07月19日	台風6号	4,907	120.4



産業指定地内の企業立地の件数



<流通関係企業の声>

外郭放水路が通っているため、水害の発生の危険性がないと考え災害にも強いまちであると実感しております。（春日部市HPより）

整備前（平成12年）



整備後（平成26年）



首都圏外郭放水路整備後に立地した物流倉庫、ショッピングセンター等 産業指定区域

V 事業効果

いしかり
石狩川（北海道）

えにわ
恵庭市では、道と川の駅「花ロードえにわ」周辺を“花のビレッジ”と位置づけ、市による花の拠点(公園)整備と共に、民間事業者による新住宅団地の建設を進めています。
また、賑わいある良好な水辺空間を創出するため、商業施設や土地区画整理事業等と連携して、水辺環境の整備を進め、観光地としての魅力や居住環境の向上により地域活性化を図ります。



道と川の駅「花ロードえにわ」恵庭農畜産物直売所「かのな」
市民団体主催によるマルシェや花とく週末は1日平均1,500人、平日でも800人らし展などの様々なイベントが開催され訪れるほど人気の直売所。れており、年間100万人を超える利用者で賑わう。

オープン当初と比較し、約3倍に増加



「花ロードえにわ」・「かのな」売上高の推移



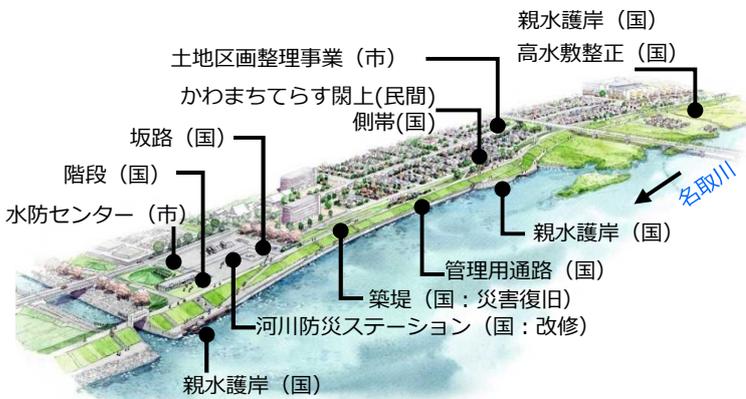
スマートタウンふれる恵み野（新住宅団地）



水辺整備箇所利用状況

なとり
名取川（宮城県）

なとり ゆりあげ
名取市河口部に位置する閑上地区は、東日本大震災により甚大な被害を受け、震災復興と連携した水辺のまちとしての復興再生を推進しています。
河川が持つ資源を活かし、商業・交流施設等と連携した賑わいのある水辺空間を創出することで、地域活性化を図ります。



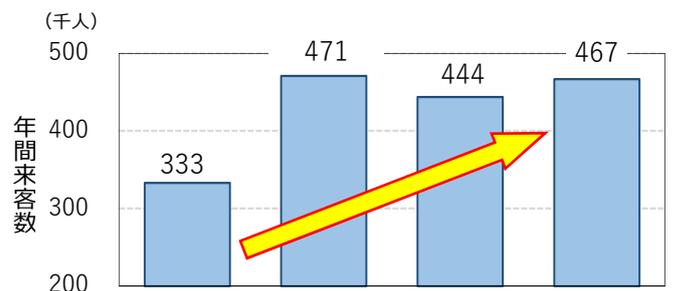
かわまちてらす閑上（平成31年4月開業）



舟運運航状況



水面利用状況（SUP体験）



かわまちてらす年間来客数 R1年はオープン（4/22）以降